

山田方谷漢詩講座、ゆかりの地探訪ツアーを実施して方谷と郷土の魅力を紹介した 方谷研究会

活動の目的

方谷研究会では、令和元年度（2019）は新たな試みとして、「山田方谷漢詩講座」（当初は全集の書簡を読む講座を開催する計画であったが、より多くの参加者を期待して漢詩講座に変更）と「山田方谷ゆかりの地探訪ツアー」を実施し、助成金も上記二事業に充当した。

①「山田方谷漢詩講座」

山田方谷は生涯に千首を超える漢詩を詠み、その多くが全集に収録されており、方谷の業績や人間像の理解には、漢詩の解説が不可欠と言われている。当研究会顧問の森熊雄岡山大学名誉教授を講師に、漢詩の解説を通じて方谷の理解を深めてもらうことを目的に開催した。

②「山田方谷ゆかりの地探訪ツアー」

県内の山田方谷ゆかりの地を訪ね、また、現地で専門家から説明を受けることにより、山田方谷に対する理解を一段と深めるとともに、郷土の歴史や文化の魅力について認識を高めてもらうことを目的に実施した。

活動の内容及び経過

①講座は、11月2日、9日、16日の土曜日の午後から、岡山県天神山文化プラザの研修室を会場に、定員30人で募集をした。募集に当たっては、岡山県郷土文化財団の協力を得たが、参加者は25人であった。各日とも受講者は熱心に森先生の講義に耳を傾けた。

最終日に参加者からアンケートをとった結果。充実した講義の内容、感情移入を憚ることなく方谷の心情に迫る講師の解説に、大半の参加者から山田方谷に対する理解が深まったとの回答をいただいた。

②11月30日（土）に、県北を中心とした山田方谷ゆかりの地をバスで訪ねた。参加者は事務局も含めて28人で、中型バスを使用。岡山駅を出発後、新見市大佐の小坂部塾跡、方谷庵のある金剛寺、大佐方谷記念館を訪問し、館長から説明を受た。その後、新見市内のJA阿新広場で昼食をとり、方谷の恩師である新見藩儒者・丸川松穂の佐藤一斎撰文になる稗を思誠小学校裏山で見学後、高梁市中井町西方の方谷生誕地へ。方谷の里ふれあいセンターで説明を聞いた後の方谷園を散策。市街では半年前に開館した方谷記念館で学芸員から解説があり、最後に、復元された水車小屋（茶屋、方谷を遠路訪ねてきた河井継之助が滞在）を見学した。車中では、漢詩講座の講師の森熊雄先生がその地その時代に関連ある方谷の漢詩を随時紹介、解説した。



ゆかりの地を訪れることによって、時間を超えての共有感覚が山田方谷をより身近な存在にさせ、また、記念館等でゆかりの品々に現地で接することができ、一段と方谷の理解が深まったものと思われる。さらに、訪問先での施設長や学芸員からの解説、森熊雄先生による関連する漢詩の紹介が方谷像の把握に有益であった。

③東京に事務所のある一般社団法人全国学生連携機構JASCAから、山田方谷の勉強会を岡場で開催したいと、講師派遣の依頼があり、2月15日（土）に6人（6人も20歳代）が来岡し、岡山駅前の貸し会議室で交流会を兼ねて勉強会を実施した。

活動の成果・効果

山田方谷の人物や当時の学芸、また、ゆかりの地の歴史や文化への理解を深めてもらい、郷土の魅力の一端を紹介することができた。

今後の課題と問題点

- ①参加者の年齢層が50代以上、とりわけ高齢者が過半数を占め、若者層への参加呼びかけ、漢詩への関心惹起をいかにするか。また、今後、助成金を受けることなく開催する場合のあり方、さらには、開催日時や場所、開催回数についても検討が必要と思われる。
- ②当初、ゆかりの地探訪バスツアーは、前記の漢詩講座受講生の現地研修といった位置づけであったが、参加者の募集が漢詩講座受講者募集と同時で、バスツアーは募集後まもなく定員に達し、漢詩講座受講者のなかにはバスツアーに参加できない人もいた。

- 代表者：朝森要 ●所在地：岡山市北区丸の内
- TEL：086-235-3456
- 設立年：2012年 ●メンバー数：58名